

## コロナ禍における看護学校の対応

四方優子

大阪済生会中津看護専門学校 専任教員

2020年4月、大阪府に第1回目の緊急事態宣言が发出され、以降、看護学校において感染対策と学習の保障の両立を図るための新たな学校運営の計画を立案する必要があった。

感染対策として最初に行ったことは、学生に体調の報告を徹底させその管理をすることであった。また、学生には医療従事者になろうとする者として、健康管理と感染対策の必要性を理解するように指導し、意識を高めさせた。体調管理については、登校前のメールによる学生の報告とその確認、登校後も教員による対面チェックを行い、二重のチェックを行った。また、学生自らが健康状態に応じて登校の判断ができるフローシートを作成し活用させている。環境管理については、学生の密集・密接・密閉を防いだ。安全に配慮した窓の開放による換気や、学生が使用する教室は広い教室へと移動し受講できるようにした。

学習の保障において最も困難を要したのが3年生の実習である。臨地での学びができない状況の中、教員はできる限り臨地での学びに近い学習ができるように創意工夫し、学内実習の指導計画を立案した。また、1・2年生の座学においては、オンデマンド授業に切り替え、講師への依頼と調整を行い対応した。

学生のワクチン接種について、1・2回目を2021年5・6月に接種、3回目を2022年1月に接種した。3回ワクチン接種した学生の割合は88%である。2020年1月から2021年度末までの学生の濃厚接触者は8名、コロナ陽性者の人数は10名である。このうち2022年1月以降の陽性者は9名であった。教職員からのコロナ発生はない。

引き続き、コロナ禍における社会情勢に対応し感染対策と学習の両立を図っていく。

